

農産物アンテナショップにおけるQRコードを利用したトレーサビリティシステムへの試み

岡山県立興陽高等学校

福 森 雅 一

1 はじめに

近年、商品管理等にQRコードが用いられることが多くなってきた。QRコードとは1994年に開発されたマトリックス型二次元コードであり、白と黒の格子状パターンを携帯端末で読み取ることにより、アクセス先のURLや必要な情報を手早く入手することができるものである。QRコードの「QR」とはクイック・リリースの略であり、その名のとおり、高速で情報を伝えることができる。開発されて15年程度であるが、市場では多くの商品において、管理目的や消費者に情報を伝えるために使用されている。海外での使用はまだ少ないが、日本では広く普及している。現在使用されているタイプのQRコードは、漢字・かなを交えた文字を最大1,817文字伝えることができる。

平成21年度、校内農産物販売所「たまこ」を開設し、各生産部門の農産物が毎週出荷できるようになった。そこでこのたび、校内販売所のPRや各販売物の品質や商品解説のため、QRコードを用いたトレーサビリティシステムの構築を試みた。

2 目的

- (1) 販売所に設置したQRコードから本校ホームページにアクセスが行えるようにし、校内販売所の宣伝を行う。
- (2) ホームページにおいて各農産販売物の栽培状況等を説明し、トレーサビリティシステムを構築する。
- (3) 販売用のポップに栽培特性の説明を行ったQRコードを貼り付け、栽培特性についての説明を容易にする。
- (4) QRコードの利用とトレーサビリティシステムの学習を通じて、商品の新しい管理技術を生徒に理解させる。

3 実践報告

(1) 生徒へのアンケート調査

比較的新しいシステムであるQRコードが、生徒達の世代にどの程度普及しているのか調べた。農業科及び造園デザイン科の各学年の草花選択生115名を対象に、「QRコードを知っているか」「利用したことがあるか」等についてアンケート調査を行った。

その結果、115名全員が、QRコードを見たことがあり、およそ9割にあたる104名が「QRコード」という名前とその意味を理解していた。また90名(78%)は何らかのかたちでQRコードを利用したことがあることが判明した。具体的な利用内容は、「自分の興味ある商品の内容をより詳しく知るため」「食物のカロリーを知るため」「クーポン等の応募に利用」「読み取らせるのが面白いので、何でも読み取ってみる」「公園で樹木の名前がQRコードで説明してあった」等多岐にわたり、生徒達の世代にはQRコードの利用が浸透しており、使うのが当たり前前の感覚となっていることが分かった。

(2) ホームページの整備と「たまこ」QRコードの作成

各部門ごとに販売農産物の写真を用意し、本校ホームページにおいて農産物の栽培の様子を解説した。

URLを表したQRコードはインターネット上のQRコード作成ページを利用して行った。



〈本校ホームページURLを表したQRコード〉

(<http://www.koyohigh.okayama-c.ed.jp/>)



〈開店日時を表したQRコード〉

作成したQRコードは会計時のレジに貼り付けるほか、宣伝用ビラに印刷し宣伝した。

(3) 栽培特性の説明を行ったQRコードの作成
授業及び実習のなかで、QRコード及びトレーサビリティシステムを解説するとともに、実際にパソコンを用いて各農産物のQRコードを作成した。



作成した栽培特性のQRコード

(例) スイートアリッサム

(例) ラベンダー



スイートアリッサム
花言葉「優美」 庭植え、ロックガーデン、鉢植え、つり鉢と多用途で楽しむことができる一年草。霜に当たると株が痛むので注意。夏前に切り戻すと秋にまた花を楽しむことができる。

ラベンダー
花言葉「あなたを待っています」 ヨーロッパで古くから利用されてきた多年草ハーブ。日当たりと風通しの良い涼しい戸外で、土を常に乾かし気味に保つ。

作成したQRコードを全ての販売物一つ一つに貼り付けることも検討したが、出荷準備の手間やシール代などがかさみ、現実的でないことから取りやめ、QRコードを耐水性シールに印刷し、商品宣伝用のポップに貼り付けることにした。



〈ポップとレジに貼り付けられたQRコード〉

4 考察

校内販売所の客層は比較的年配者が多く、実際にはQRコードの利用になかなか繋がりにくかった。しかし、生徒達へのQRコードの普及率を考えると、携帯電話の普及自体も十数年前までは一般的ではなかったことから分かるように、今後全ての世代にQRコードの使用が普及していくことは十分に考えられる。また、生徒はQRコードに大変興味を持ち、QRコード作成を通じてトレーサビリティシステムを理解することができたのを感じた。

5 今後の課題

校内販売所自体は比較的安定した経営がなされているが、まだまだ地域への宣伝が十分とは思えない。今後もQRコードやホームページを利用して、引き続き販売所自体の宣伝を行っていきたい。また販売品目が多く、QRコードを準備できていない農産物もある。今後も販売品目を検討するとともに、QRコードの作成を継続して行い、ホームページの充実を図っていききたい。